

人間は感情の生き物

ナポレオンは「すべての人間を動かす二つのテコ、それは恐怖と利益だ」と言ったそうですが、私に言わせると、「すべての」と言うなら、あと二つ、「大義名分」と「人間感情」も加えて欲しいですね。大義名分なんて・・・と言われるかも知れませんが、これは意外に大事なんです。世間から冷たい目で見られていた、ある信販会社は社員に対し、「我々はお客さまの豊かな暮らしと夢を、資金を融通することで支援するんだ。何も後ろめたいことはない」と言って聞かせたら、著しく業績が向上したと言います。

一方、人間感情ですが、以前、若い農家の方が、「トラクターは壊れると修理が大変。牛馬ならこんなことはなかった」と言うのを聞いて、ある年配農家の方の言を思い出しました。曰く、「機械なら修理できるが、牛馬は機嫌を損ねたら引っ張っても叩いても動かない。あんな大きいのが動かないと人力ではどうしようもない。日が暮れてくると灯りも無いし、といて、牛馬は農家にとっては大変な財産なので、置いて帰るわけにもいかないし」と。ましてや、人間は万物の霊長。「みんな仲良くしてね」で仲良くなれば良いですが、相性というものはあるわけで・・・。

豊臣秀吉と武田信玄には従順だった真田昌幸も、どういうわけか戦国武将の中では、少なくとも表面的には温和で篤実な印象がある徳川家康とは徹底して反りが合わなかったし、温厚篤実で比較的、敵がいなかった、来年の大河ドラマの主人公で、かつ、新1万円札の顔となる渋澤栄一も、どういうわけか、時の最高実力者・大久保利通とは反りが合わず、逆に、渋沢の政敵、三菱の岩崎彌太郎は大久保とは初対面から意気投合したと。この辺は、有能さとか、やる気といった以前の、人間としての相性の問題があるような気がします。

東条英機が、集鴨プリズンに収監中に、日系二世の通訳の悪さに憤慨し、思わず、「親の顔が見たい」と言ったら、彼は自分の親に「トージョーがパパとママの顔を見たいって言ったよ」と自慢したという笑い話もありますが、世の中には、悪気があるわけでもないのに、どうにも、噛み合わない人というのがいるんですね。

もっとも、不仲のごろつき同士を同じ牢屋に入れておくと、最初は口も聞かないのが、一日経ったらすっかり仲良しになっている・・・という話もあります。明治陸軍のホープと目された長州の桂太郎と薩摩の川上操六は犬猿の仲で、両者の不仲を案じた陸軍上層部が、洋行の際、両者の船室を同じにしたら、着く頃には親友になっていたと。どうやら、男という生き物は、エリートもごろつきも基本的なところは差がないようです。（小説家 池田平太郎）

コロナ自粛明けの発がんが急増中

コロナによる影響は慢性炎症性疾患の分野でも尾を引いています。コロナ自粛が明けて、日常活動が徐々に戻ってきましたが、店頭で目立つのは、体調が悪く検査してみたら発がんしていた・・・とか、10年以上前のがんが再発した・・・自粛期間中に転移していた・・・などのご相談です。こういった発がんを、“前代未聞の想定外のストレスだった”と片付けてしまえばそれまでですが、何故そうなったかを分析する事で、今後の養生の糸口が見つかります。

様々な原因としては

- 1、体調不良があったが、感染が怖くて病院に行きづらかった・・・炎症を抑えることができない
- 2、自粛生活中は運動量が減り、ストレスで間食が増えた・・・炎症を助長する食事
- 3、先が見えない不安に怯え、悶々と悩む日々が続いた・・・交感神経の持続緊張による炎症、などで、これらはいずれも慢性炎症の助長による発がんにつながると予測できます。

中でも、自粛期間中に今回のコロナ騒動に適応できなかったか、できなかったかが、大きな分かれ道になったのではないかと考えられます。コロナ自粛を境に、返って生き生きと元気になり、“とても充実した良い自粛期間になって、充電できました！！！”と言われる方も多々おられます。

そういった方々は自粛期間中に

- 1、今までの働き方や生き方を見直し、これからどうやって生きていくか検討した
- 2、仕事中心をやめて自分の体中心の生活習慣が身についた（運動習慣、体が喜ぶ食事、早寝早起きなど）
- 3、普段出来なかった大掃除、チャレンジしたかった資格などに挑戦し、充実感があつた
- 4、リモート社会について行けるよう、ズームなどの準備をした

などの過ごし方をされ、自粛明けからは、以前の生活に戻るのではなく、出来る事、新たなやり方です、第一歩を踏み出されたようです。

一方、今まで通りのやり方に固執し、期間明けを待っていた方は、今までのペースで事が運ばない苛立ち、空白の3ヶ月を取り返さねば・・・という焦りで交感神経が持続緊張を強いられられていたのでは？と考えられます。不安は、緊急事態から身を守るためのアクションを起こすための感情ですので、方針さえ決まれば解消されます。今一度、新たな自分の生き方を見つめてみる事で新たな炎症を防ぎ、出来てしまった炎症を解毒する事で体は回復してゆきます。

慢性炎症の解毒には一人一人の状況に応じた食事法や漢方が有効ですので、気になっておられる方は、是非ご相談ください。（薬剤師、薬食同源アドバイザー 高田理恵）

たかがマスク、されどマスク

安倍のマスクに批判が殺到している中、かたくなに、当該マスクを着用していた首相はそれなりに立派だ。閣僚のほとんどがこれを着用していない様子が国会や委員会のテレビ映像で流されていたが、その理由が、このマスクを着用する姿が映されると首相におもねっている見られやしないか危惧しているからと解説しているコメンテーターがいた。そうだとしたら、なんとも腹の座っていない議員たちで、国を任せられるか不安で、情けない。

マスクが市場に出回るころには、マスク配布に無駄金を使ったなどの批判も噴出するしまつ。マスクが入手できないとプーイングしていたのをすっかり忘れていた。

安倍のマスクを配布するとアナウンスしたことで、マスクが市場に出回り、価格も低減した効果があっただけでも、マスクの国内生産、国民への配布に意味があった。

今回のマスク騒動で、そのほとんどが、中国からの輸入だったとわかっただけでも大きな成果だ。

もう不要になったから、生産契約を破棄すべきだとと暴論をはく輩もいる。国との契約が簡単に反故にされるとしたらそのほうが問題だ。むしろ、マスクは、国内生産で賄うことを決めて、今回、急ぎょマスク生産に同意してくれた企業には、今後も、継続的に発注することで、国産化を定着させるべきである。

マスクが小さいと文句を言う輩もいたが、若い娘は、このマスクがちょうど良いサイズだと、自らの小顔を自慢している。また、女子高生の間では、このマスクに刺繍やアップリケなどを付けて、デザイン性を自慢し、競っているという。なんとまあ、おらかな心だこと。何事も前向きに、良い方に受け取った方が、人生、楽しいものだ。

ちなみに、配布に、郵便局を使ったことにも、難癖をつける人が少なくないが、今回の措置で、郵便事業の赤字が少しでも縮小することに役立ったならば結果オーライである。

昔、北海道で土建業を営む知人と無駄な公共事業のことで議論したことがある。彼、曰く「北海道のような僻地で無駄な公共事業を全て無くせば、年金生活者が増えるか、人口が激減する」ので、国の使わなければいけないお金の使いみちが移動するだけで、国が支出する総額はそんなに変わらないと、言い訳してしていたが、一理ある。

当初、新型コロナウイルス感染症におけるマスクの着用について、症状のない人までマスクを着用する必要はないといていたWHO（世界保健機関）が、6月5日、症状がない人もマスク着用をするようにと、方針転換した。マスクで一儲けしようとしていた中国の意向に忖度したのかもしれない。

小生は、当初から、マスクの着用には懐疑的であり、東京に出かける時の列車の中でもかたくなに着用しない。ただし、大型のハンカチは持つ。マスクより、ハンカチのほうが防衛効果は高いと思うのだが・・・。東京に行くときは、鈍行のグリーン車と決めているが、ほとんど乗客がおらず、空調も十分考慮されており、何の問題もない。ただ東京から夜に帰り地元のスナック寄ると、不安がられるのが玉に瑕だ。酒を飲むのもタバコを吸うのも無駄だといえれば無駄かもしれないが、40代のころに、タバコをやめたものの、その分、お金が溜まったかという、NOである。お酒もまったく同じで、ストレスを抱えることで病気になるれば、国家財政をより悪化させることになる、自己弁護している。世の中、無駄もだいたいなのである。

東京の1日400人の新型コロナ検査での陽性者より、田舎の一人の陽性者のほうが発生確率は高いので、東京のほうが安全だと思うのだが・・・。（ジャーナリスト 井上勝彦）

広告